



# 2019年度 出前講座報告書

NO.6

2019年11月18日 福島県会津保健福祉事務所

## 災害保健活動の実践から学ぶ地域保健活動の 原点と保健師の役割

～Social・Capitalを醸成する健康づくり&地域づくり活動～

東日本大震災の被災地域では、被災者への支援活動とこの活動と並行して多くの人々と協働してのソーシャル・キャピタルの再構築や地域づくり活動が展開されてきています。今回は、これらの実践活動から得られた教訓や成果を共有し、今後の地域保健活動のあり方や方法について学ぶことを目的に開催いたしました。



### 講義の様子



#### 講師紹介



福島県立医科大学医学部  
災害公衆衛生学看護学講座  
教授 末永カヅ子

#### 略歴

- 自治体保健師として保健所、児童相談所、発達相談支援センター等に勤務
- 東北大学大学院教育学研究科後期博士課程修了(教育学博士)
- 東北大学医学系研究科 地域ケアシステム看護学分野教授
- 長崎大学・福島県立医科大学 共同大学院 災害被ばく医療科学共同専攻教授

#### 専門領域

- 公衆衛生看護学
- 地域ケアシステム論

講義では、大震災後に求められた本来の保健師の役割である協働しての地域保健活動（地域づくり）の実際と意義、そして、この活動が実践できる組織づくりの重要性について学びました。

また、Social Capital醸成の視点から地域保健活動を可視化するという意義について学ぶとともにWell-Beingを基本理念とする地域保健活動の質を高めるために必要な公衆衛生看護管理機能について学びました。

## グループワークの様子

グループワークでは、昨今の災害対応の実際と本日の講義の内容を踏まえ、より質の高い地域保健活動を展開していくためにというテーマで意見交換を行い、共有しました。各グループで出された実行計画や課題に応じて講師からは、熱いメッセージが送られました。



▶グループワークでは、これからの地域保健活動について意見交換すると共に課題についても共有しました。

## アンケート集計結果

参加者は33名、アンケート回収は26名でした。

	そう思う*
研修の資料や進行について 配布資料は適切だった 時間配分は適切だった 進行は適切だった	81% 50% 73%
講義について 講義内容が理解できた 講義は今後の保健活動に役立つと思う 学んだことを同僚に伝えたいと思う	69% 92% 92%
話し合いについて 話し合いは今後の保健活動に役立つと思う	92%
あなたご自身について 研修を受ける前よりも、保健活動に対する自信が増したと思う 研修を受ける前よりも、健康に関して住民と話し合う自信が増したと思う	50% 50%

## 参加者の感想(一部抜粋)

- 自分が普段行っている活動が全てS・Cに繋がっていると実感できませんでした。目の前の活動だけになりがちですが、全体を考えられるPNHになりたいと思いました。
- 日常の業務の中で、地域や人を良く知ることが大切だと思いました。
- 災害や経験したことをしっかり振りかえり、日々の活動や非常時に備えたいと思います。

## 復習ポイント

- ✓ Social Capital醸成と地域づくりについて
- ✓ これまでの災害保健活動から取り入れられる本来の地域保健活動とは

\*5段階評価：「1. 全くそう思わない」～「5. 大いにそう思う」の4と5の合計

